

海難季報

夏の船舶事故の傾向（集中豪雨や台風襲来に注意）

毎年、8月、9月には全国的に台風や集中豪雨が発生し、係留中の船舶が浸水・沈没する等の事故が発生していますので、「**早めに気象・海象情報を入手**」し、適切なタイミングで「**係留状態の強化**」等の対策を実施願います。



浸水・沈没事故対策

- ◇船舶の陸揚げ・固縛の強化
- ◇静穏度の高い海域への早期避難
- ◇係留の強化（係留索の摩耗等確認）
- ◇スカッパ及び甲板の排水設備の開放の確認

海の事故情報

令和8年7月末現在

区分		対馬	昨年比
発生数	船舶	7隻	-2隻
	人身	4人	-2人
	死者	0人	-3人

※「死者」には行方不明者を含む。
※昨年比の値は、令和7年7月末の件数との比較しての値

熱中症に気を付けて

8月以降も熱中症への警戒が必要な状況が続きます。

熱中症と思われる症状が出た場合には、

- 「**涼しい場所への移動**」
- 「**からだを冷やす**」
- 「**水分補給**」

等の対策を行いましょう。

※右図は厚生労働省ホームページから転載したものです。

厚生労働省ホームページ

熱中症予防のための情報・資料サイト

二次元コード



熱中症が疑われるときには・・・

チェック1 熱中症を疑う症状がありますか？

（めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温）

はい

チェック2 呼びかけに応えますか？

はい

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす

チェック3 水分を自力で摂取できますか？

はい

経口補水液などを補給する

※経口補水液を一時に大量に飲むと、ナトリウムの過剰摂取になる可能性もあります。腎臓、心臓等の疾患の治療中で、医師に水分の摂取について指示されている場合は、指示に従ってください。

チェック4 症状がよくなりましたか？

はい

そのまま安静にして十分に休息をとり、回復したら帰宅しましょう

いいえ

救急車を呼ぶ

救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合は無理に水を飲ませてはいけません



涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす

水のう等があれば、首、わきの下、太もものつけ根を集中的に冷やしましょう※



医療機関へ

本人が倒れたときの状況を知っている人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう



※スポーツや激しい作業・労働等によって起きる労作性熱中症の場合は、全身を冷たい水に浸す等の冷却法も有効です。